



10月はマリア様の月、生徒たちは各学年ごとの修養会を経て自分の心と向き合いました。  
 長く暑かった夏がようやく終わったと思ったら、秋を飛び越えて一気に冬の足音が…。健康管理に気をつけましょう。



## 11月の予定



		行事	弁当
1	水		要
2	木	高2進研模試②	※
3	金	文化の日	
4	土	父の会聖書サークル(16:00~Sr.田口)	
5	日	第2回英検二次A	
6	月		要
7	火	母の会聖書サークル(10:30~ Sr.新庄)	要
8	水	追悼ミサ5・6限(13:30~15:00) 職員会議	要
9	木	高2小論文③ ピアサポート⑦	要
10	金	中3 高等聾学校との交流会 5~7限	要
11	土	SP16	※
12	日	第2回英検二次B	
13	月		要
14	火	全校朝礼	要
15	水	梅干し弁当⑥ 課題研究ミーティング④	要
16	木		要
17	金	聖フィリピン・デュシェーンの祝日全校朝礼	要
18	土	SP17	※
19	日		
20	月		要
21	火	母の会聖書サークル(10:30~ Sr.田口)	要
22	水		要
23	木	勤労感謝の日	
24	金		要
25	土		
26	日		
27	月	後期中間考査 高校①・中学①	※
28	火	後期中間考査 高校②・中学②	※
29	水	後期中間考査 高校③・中学③	※
30	木	後期中間考査 高校④・中学特別プログラム	※

☆ ※の日は、必要な方は昼食をご用意ください。

☆ 行事予定は暫定のもので、大きな変更がある場合には、一斉メールや学校ホームページ等でお知らせいたします。

## 梅干し弁当募金

10月18日(水)に行われた梅干し弁当募金は総額 **21,287円**が集まりました。今回は貧困に苦しむシエラレオネという国のグアダルーペ聖母女学園の園児・児童・生徒などへの教育支援・給食支援として「ともに歩む会」に寄付いたします。ご協力ありがとうございました。

## 百合の行列

感ずべき御母の祝日(10/20)と無原罪の聖母の祝日(12/8)を記念して、10月2日(月)に百合の行列を行いました。マリア様の生き方にならい歩んでいけるよう一人ひとりがその思いを一輪の百合に託し、祈りを捧げました。



## 中3職場体験

10月12日(木)に中学3年生が渡辺理美容店と友ラゲージアガミ札幌校で職場体験をさせていただきました。お客様の立場からは見えないところにも色々な仕事があることが分かる貴重な体験でした。受け入れて下さった方々に感謝いたします。



## Congratulations!

第69回札幌市読書感想文コンクール

・札幌市学校図書館協議会会長賞

高3S 谷口まる

・札幌市PTA協議会会長賞

高3S 西恵里奈

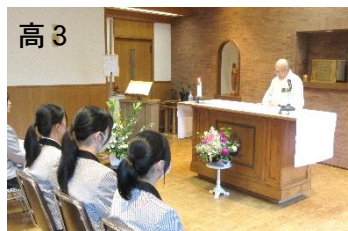
・優良賞

高3G 関根凜子

## 修養会(中3・高3)・見学旅行(高2)

10月6日(金)に中学3年生、13日(金)に高校3年生の修養会が行われました。修養会とは、日々の生活をふり返り、自己を見つめて、新たな発見や意味を感謝のうちに見出す機会として大切にしている行事の一つです。

中学3年生はフランススコ会の松本神父様のご指導で、「いのちの尊さ」「仲間の大切さ」についての黙想会が行われ、高校3年生はイエズス会の林神父様をお迎えして、「それでも、私たちは熱く輝く！喜びが待っている」をテーマにご指導いただきました。また、母の会でも12日(木)に林神父様のご指導の下修養会を行いました。



高校2年生の長崎への3泊4日の見学旅行も修養会の一環として位置づけられています。1日目は本河内教会、被爆講話、2日目は平戸島、ド・ロ神父記念館、遠藤周作文学館、黒崎教会など、3日目は浦上天主堂、永井隆記念館、平和公園などを見学した後に自主研修、4日目は聖フィリッポ教会、大浦天主堂などを見学しました。



それぞれが新しい気づきを得て、気持ちを新たに歩みを進めていくことができますように。

## 今月のこころのことば

「漕ぎ出しなさい。」 ルカによる福音書 5章3～4節

聖フィリピン・デュシェーンは、1818年、<sup>みこころ</sup>聖心の愛を伝えるために、帆船レベッカ号で大西洋に漕ぎ出し、52日間かけて新大陸に渡り聖心女子学院を設立しました。聖心の教育はそこから南北アメリカ、そして全世界に広がり、日本に聖心があるのは彼女のおかげといっても過言ではありません。

彼女の伝記を読むとその人生は失敗や挫折、試練が多く、学院の閉鎖を余儀なくされるという私たちと同じつらい経験もされました。またアメリカに渡ったのが49歳で、長年の夢であった先住民ポトワトミとの出会いが72歳の時だったことは、私を勇気づけ、自分にもまだやるべき使命があると気づかせてくれます。

2018年、渡米200年を記念する式典がアメリカで開催され、私は参加の機会をいただきました。その5年後、閉校のため札幌聖心の高校に進学できない中学2、3年生のための「アメリカ聖心姉妹校ルーツの旅」で生徒を引率しその場所を再び訪れることとなりました。

聖フィリピン・デュシェーンが最後の日々を過ごされた建物に宿泊し、実際に使われた家具に触れ、聖女が祈る姿を具体的にイメージできたのは、得難い体験となりました。またミズーリ州の聖心姉妹校2校を訪問交流し、全校を挙げて歓待して下さったことも忘れられません。毎晩、聖女のご遺体が安置された学院内の記念聖堂で振り返りと分かち合いをするとき、間違いなく彼女が私たちとともにいてくださり、これからの行く末を祝福してくださっていることを感じました。私たちも聖女のように勇気を持ち、神様を信頼し新世界に漕ぎ出していくことができますように。



(副教頭 市川暁子)